

就任のご挨拶



総合内科部長
池田 恭治

私は京都に生まれて最初の20年弱を京都で過ごし、次の20年を東京で、大学病院や一般総合病院で内科、内分泌・代謝の臨床をしていましたが、思いもかけず40歳で名古屋に移り、老化や老年病の基礎研究に従事することになりました。さらに20年が経ち最後は自分の生まれ故郷に戻ってもう一度医療の現場で働きたいと思い、4月から武田病院に勤めさせていただいております。20年の間に医学知識や医療技術、電子カルテなど大きく進化・変貌した現場を前に戸惑うことも多いですが、人間が人間をみるという基本は変わらないと信じ、なにかひとつでもお役に立てればという思いで一人一人の患者さんに接しています。

総合内科専門医の医師像についてさまざまな議論が進む中、総合内科・総合診療とはどうあるべきなのか、多様な人たちの考えにふれ自分なりに考えてもいますが、「かかりつけ」や「在宅」というイメージに近いのではないのでしょうか？病院内外の皆様と連携しながらなんとか地元で医療連携の輪を広げていけたらと思っています。



泌尿器科部長
河瀬 紀夫

当科においては約1年間部長不在の1人体制での診療で、地域の先生方にはご迷惑をおかけしておりましたが、ようやく2人体制に戻り今後外来診療・手術などを充実させていきたいと思っています。

前任地は京都桂病院で9年間の在職中に腹腔鏡を中心とした数多くの内視鏡手術を施行してまいりました。腹腔鏡手術は開放手術に比して創が小さく低侵襲であり、合併症や出血量の減少、入院期間の短縮などの多くの利点があり、泌尿器科領域の主な手術は開腹から腹腔鏡手術に移行してきております。当科は2人ともに腹腔鏡技術認定医であり、今後可能な症例に対して積極的にかつ安全に進めてまいりたいと思っています。

また人口の高齢化に伴い排尿困難・尿失禁など下部尿路症状を訴える患者も増加しており、症状が重く難治性の方は是非病診連携を通してご紹介いただき、症状が安定すれば逆紹介させていただきたいと考えております。今後さらに親密な地域連携を目指していく所存です。よろしくお願いいたします。



地域医療連携だより
地域医療支援病院
医療法人財団 康生会 武田病院 発行
京都市下京区塩小路通西洞東入東塩小路町 841-5 TEL : 075-361-1351 (代表)

受付時間

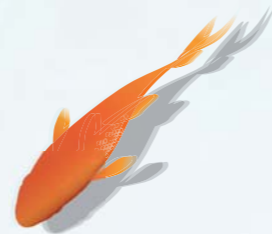
月曜日～金曜日 8:30～19:00 土曜日 8:30～17:00
※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただいております。

医療機関専用

TEL (075) 361-1352 (直通)
FAX (075) 361-1337 (直通)

※地域医療連携室受付時間外につきましては医事部（医療事務）にて対応させていただいております。

TEL (075) 361-1351 (代表) FAX (075)-361-1268 (医事部専用)



康生会 武田病院

2016年 夏号

地域医療連携室だより

消化器科特集



消化器センター
副院長 高橋 周史

消化器センター（消化器内科）では、チーム医療により患者本位の医療を行なうことを基本方針とし、消化管から肝・胆・膵まで、消化器内科領域のあらゆる疾患に対応しています。特に急性期病院の性格上、救急疾患の比率が高く、外科や放射線科などとの連携のもと、腹部救急疾患に対して常に最善の医療を提供できる体制を心がけています。



担当医の紹介

■上段

(左) 碓井 文隆
(左中央) 遠藤 雄基
(右中央) 眞鍋 繁雄
(右) 安岡 貴之 専攻医

■下段

(左) 松山 竜三
(左中央) 高橋 周史 副院長
(右中央) 平田 育大 医長
(右) 山口 琢

理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R (減らす、再利用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

新外来棟に内視鏡室がリニューアルオープンしました



新外来棟の完成に伴い、少し手狭であった内視鏡室は新外来棟 2 階に新たに開設されました。

- ① 内視鏡室のスペースが従来より広くなりましたので、十分な広さの検査室が 3 部屋確保できました。
- ② 従来、上部内視鏡検査は原則として予約制でしたが、検査室に余裕ができましたので、絶食で午前中にご来院いただければ予約なしでも当日に検査が可能となりました。
- ③ 咽頭麻酔などの検査前処置を行う十分なスペースや更衣室なども確保でき、患者さんのアメニティが向上しました。
- ④ 検査後のリカバリーベッドを内視鏡室の隣りに 5 台備えましたので、検査を楽に受けてほしい患者さんは安心して鎮静剤使用下で内視鏡検査を受けていただけます。
- ⑤ 内視鏡室は、消化器内科外来と同じフロアで近接しておりますので、内視鏡検査後に診察室へ、あるいは診察後に内視鏡室への移動が便利になりました。



今後は内視鏡機器の充実も予定しています。

消化管カプセル内視鏡検査について



Q1. 消化管カプセル内視鏡ってそもそも何??

究極的に非侵襲的な「飲むだけ」のカプセル型の内視鏡のことです。1981年にイスラエルの軍事技術者により研究開発がはじまりました。実はミサイル先端の電子光学撮像装置の応用利用なのです。2001年に米国と欧州で承認されてから急速に普及し、日本では 2007 年 10 月に保険診療で認められました。

Q2. 消化管カプセル内視鏡のメリットは??

飲むだけのカプセル内視鏡は、従来の「管」を口や肛門から挿入する内視鏡と比べて、患者さんの身体的・精神的な負担を大幅に軽減します。また、口からも肛門からも遠く、全長も 6m~7m と長く、検査そのものが困難であったため「暗黒の大陸」とも称された小腸を、このカプセル内視鏡で苦痛なく詳細に観察できるようになりました。腫瘍だけではなく原因不明の消化管出血や腹痛、消化吸収不良、蛋白漏出性胃腸症などに対しても診断につながります。

Q3. 小腸の病気とカプセル内視鏡検査の適応は??

これまで「小腸の病気は少ない」とされてきましたが、カプセル内視鏡などの検査手段の登場により「意外と小腸に病変がある」ことがわかってきました。特に、高齢化により骨・関節疾患や脳梗塞・虚血性心疾患の増加に伴い、非ステロイド性消炎鎮痛薬やアスピリンを服用せざるを得ない患者さんが非常に増えております。これらによる小腸潰瘍や出血をみる機会が増えました。また、他の先進国と同様にクローン病をはじめとする炎症性腸疾患も急増しています。小腸の検査を必要とする患者さんは以前より格段に増えています。

保険適応となるのは「小腸疾患が既知又は疑われる患者」に拡大されました。ただし、消化管の狭窄又は狭小化の可能性がある場合には、パテンシーカプセルによる消化管開通性評価が必要です。



サンプル造影画像 1



サンプル造影画像 2

Q4. カプセル内視鏡が使える診察は??

消化器センター(消化器内科)の外来医表

平成 28 年 7 月 1 日 現在

	月	火	水	木	金	土
午前	平田 育大 (医長) ★	高橋 周史 (副院長) ★	山口 琢★	中部 奈美★	ボク 朴 義男★	眞鍋 繁雄★
午前2	常勤担当医 (消化器内科・初診)	遠藤 雄基★		常勤担当医 (消化器内科・初診)	碓井 文隆★	
午後	松山 竜三★ (14:30~16:30)	高橋 周史 (副院長) ☆			ボク 朴 義男☆	

◆受付時間◆

午前診 8:00~12:30
午後診 13:00~16:00

◆予約外来◆

当院では待ち時間短縮のため、下記の印(★・☆)の科目については、予約制を導入しています。

★…初診・予約のない再診・急患の方も受付けています。

☆…予約された方だけの診療となっています。

(他院からの診療情報提供書をお持ちの患者さんはこの限りではありません)

胃カメラをしても大腸内視鏡検査をしても原因不明な消化管出血や貧血、あるいはその他小腸疾患の可能性がありましたら、消化管カプセル内視鏡による検査はいかがですか？
お役立ただいただければ幸いです。